

「自主防災組織について」

はじめに

- 近年、地震や台風、豪雨・豪雪などで多くの尊い命や貴重な財産が失われています。
- 県や市町村をはじめとする各防災機関は、災害に備えてさまざまな対策を実施しておりますが、実際大規模災害が発生した場合、その被害を最小限に食い止めるには、地域の皆さんによる防災活動が不可欠です。
- 「自主防災組織」は、そのような地域の活動を効果的に行うための組織です。
- 「自主防災組織」を積極的に結成していただき、あらゆる災害へ対応できる「災害に強いまち」づくりへ地域の皆様の力を結集しましょう。

自主防災組織とは？

- ☆自主防災組織は、地域住民が自主的に連帯して、防災活動を行う組織のことを言います。
- ☆具体的には、平常時は防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給食給水などの活動を行います。



自主防災組織はなぜ必要なのか？

- ☆大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。このような時、住民が一致協力し、地域ぐるみで取り組むことで有効な対策をとることができます。ここに自主防災組織の必要性があります。
- ☆阪神・淡路大震災では、救出された人たちの3割が家族、3割が近所の方々により救出されたという報告があり、自主的な住民組織の有効性が改めて認識されました。

阪神・淡路大震災のとき、倒壊した家屋の下から「自力で」助かった人や「家族に」救助された人、そして「友人、隣人に」救助された人が**圧倒的多数**でした（右図参照）。



自助

自分や家族を
災害から守る



共助

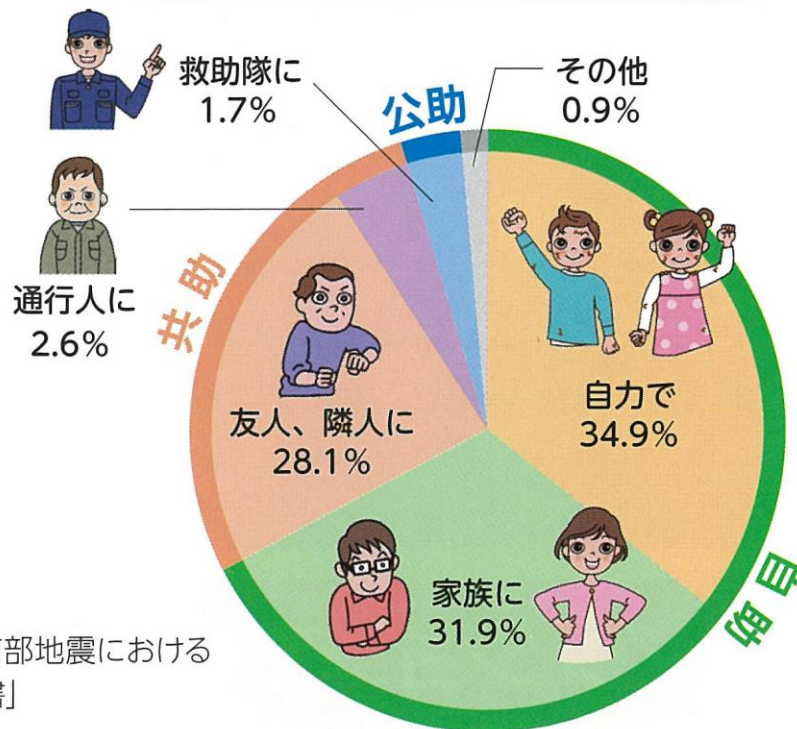
近隣や地域の
人々が協力して
災害に備える



公助

国や自治体が
災害に対応する

誰に救助されたか



出典：日本火災学会「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」

自主防災組織の活動

災害による被害を予防し、軽減するための活動を行います。

平常時の活動例

- ・ 防災知識の普及
- ・ 地域災害危険の把握
- ・ 防災訓練の実施
- ・ 火気使用設備器具等の点検
- ・ 防災用資機材の整備等

災害時の活動例

- ・ 情報の収集・伝達
- ・ 出火防止・初期消火
- ・ 住民の避難誘導
- ・ 負傷者の救出・救護
- ・ 給食・給水等の活動



自主防災組織のメリット

自主防のメリット ①

迅速な避難を可能にする

東日本大震災直後、いち早く住民の安否確認や避難誘導を進め、避難所を開設した地域があります。

自主防を活用した成果でした。

会長は避難所へ向かう途中で拡声器を持って安否確認を実施。**日ごろから訓練を行っていた**ため、迅速に避難を完了させました。



自主防のメリット ②

的確な安否が確認できる

無事か避難している場合は「**安全旗**」を掲げ、旗の出していない世帯を対象に安否確認を行った地区があります。

避難の時に**支援が必要な住民のリスト**も作成していたため、限られた人数でも、効果的に安否確認を行うことができました。



写真提供：鎌倉市今泉台町内会
<http://imaizumidai.org>

自主防災組織結成の流れ

自主防災組織の結成について、
町内会・自治会へ提案する。



結成準備を行う担当者を決める。
[防災活動の経験者が望ましい]



自主防災組織の基本的な事項に
ついて案をまとめる。

- ① 組織の形の決定
- ② 組織編成案の作成
- ③ 役員の人選 ④ 規約の作成
- ⑤ 活動計画案の作成
- ⑥ 収支見込み



役員でよく話し合いより良い案
に修正する。



役員会で案の了承を得る。



町内会や自治会の総会で討議、
可決する。



自主防災組織の結成



組織づくりの方法

☆自主防災組織は、地域の住民が組織結成に合意し、規約、組織、活動内容を定めることで成立します。

自主防災組織の規模

☆自主防災組織は、地理的条件、生活環境などから見て、地域として一体性を有する大きさが最も効果的に活動できる規模とされています。

☆そのため、自主防災組織の多くは、町内会や自治会、小学校の校区ごとに結成されています。

自主防災組織の形（タイプ）の決定

どのタイプの組織が地域の実情に即しているか話し合います。3タイプのうち「重複型」が主流です。

[重複型]

町内会、自治会の代表者や役員が、自主防災組織の代表者や役員を兼職します。

町内会、自治会の活動と一体的に防災活動を行えるメリットがあります。



[下部組織型]

町内会、自治会の一部門として自主防災部門を設置し、独自の代表者と役員を配置します。

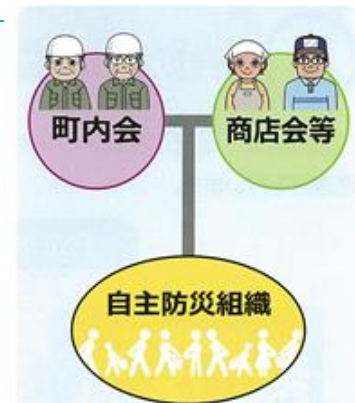
防災活動に専念して活動できるメリットがあります。



[別組織型]

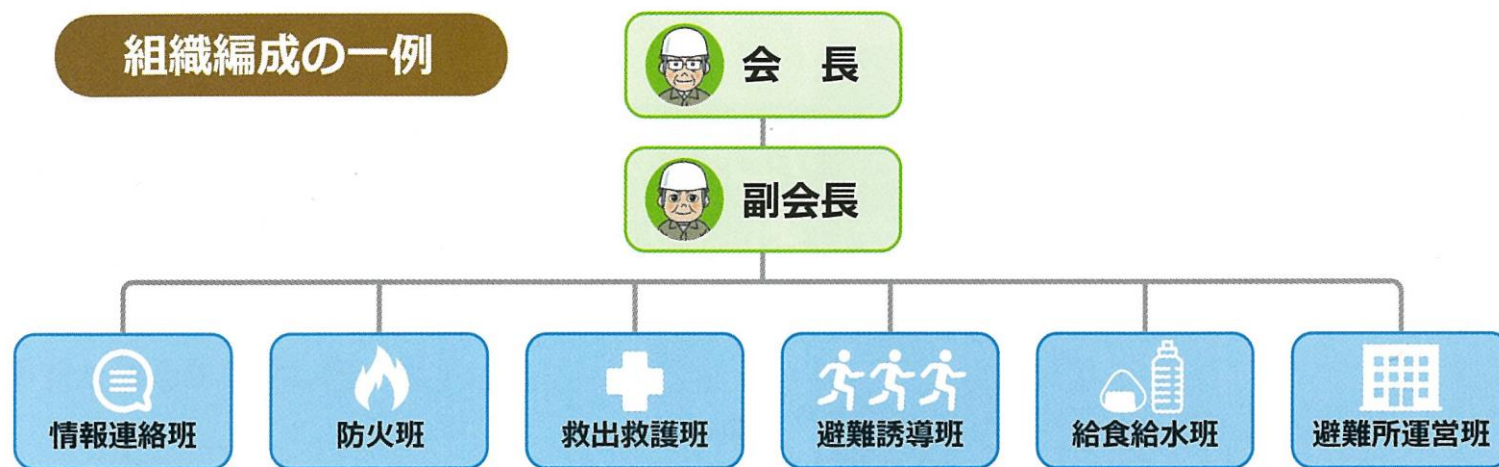
町内会、自治会が、商店会や他の町内会等の組織と連携しながら、町内会とは別に自主防災組織を結成します。

町内会、自治会の範囲に限定されず、連携先の技能や活力との相乗効果を期待できます。



規約や組織の原案について話し合きましょう

役員等で規約、組織編成、活動計画の案について話し合います。



地域の実情に応じ、水防班、巡視班などの設置も考えられます。

(自主防災組織の) 役員の人選

☆組織のかたちや編成が決定した後は、会長、副会長、班長などの役員の人選を行います。役員、特に班長には防災活動の経験がある人が望ましく、総会まで最終的な候補者をたてておく必要があります。

規約の作成

☆自主防災組織が組織として活動するには規約を定めることが必要です。

☆規約を定める方法としては、次の2つの方法が考えられます。

①

新たに自主防災組織の
規約を定める方法

②

町内会や自治会などの
規約を改正して対応
する方法

☆規約は最低限、次の項目について定めるようにします。

規約に
盛り込
む項目

組織の
名称、目的

事 業

役員を選任
方法、任期

会議(総
会、役員会)

会 員

経費に
関すること

活動計画案の作成

- ☆年間活動計画の案をたてます。防災活動は多岐にわたりますので、できるところから少しずつ取り組みましょう。
- ☆町内会や自治会の行事と兼ねて、自主防災組織の行事や普及啓発活動を行うのも、取り組みやすさや、予算の面からも有効な方法です。

【活動計画の作成例】

行事予定

4月〇日	役員会、総会
5月〇日	救急救命訓練
9月〇日	市総合防災訓練参加
10月〇日	危険箇所確認

収支見込み

- ☆自主防災組織の活動に要する経費について、収支見込を出します。
- ☆方法を工夫することで、経費をかけずに活動することもできますので、収支見込をたてる際には、地域実情、活動内容をよく検討した上でたてましょう。



組織の主な活動内容

(1) 平常時の活動

項目	具体的な活動内容	備考
①災害に備えるための活動	<ul style="list-style-type: none"> ●防災資機材の整備 ●備蓄品の管理 	
②災害による被害を防ぐための活動	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の危険箇所の把握 ●地域の避難路、避難場所の把握 ●防災マップの作成 	
③災害時の活動の習得	<ul style="list-style-type: none"> ●消火訓練 ●避難訓練 ●給食給水訓練 	<p>特別な訓練を行わなくても、町内運動会などの行事内容を工夫することで訓練を兼ねることができます。</p> 
④普及啓発活動・広報紙の発行	<ul style="list-style-type: none"> ●広報紙の発行 ●防災講演会の開催 ●火気を使用する器具の点検・整備の呼びかけ 	<p>町内会会報などに防災記事を掲載する方法もあります。</p>

(2) 災害時の活動

項目	具体的な活動内容
① 情報収集・伝達活動	<ul style="list-style-type: none"> ●被害情報・救援情報の収集と伝達 ●防災機関との連絡
② 初期消火活動	<ul style="list-style-type: none"> ●消火器などによる消火活動
③ 避難誘導活動	<ul style="list-style-type: none"> ●住民を避難所へ誘導 ●住民の安否確認 
④ 救出救護活動	<ul style="list-style-type: none"> ●負傷者の救出救護 ●医療機関への連絡 ●介助が必要な人への手助け
⑤ 給食給水活動	<ul style="list-style-type: none"> ●食料、飲料水の調達と炊き出し ●救援物資の受領、分配



※無理することなくできる範囲で、できるところから。

備蓄品・防災資機材等の例

備蓄品・防災資機材については、世帯ごとに用意するものと自主防災組織として用意するものを決めておきましょう。

避難・情報収集・伝達用

No.	項目
1	携帯用ラジオ (予備電池)
2	サイレン付拡声器 (予備電池)
3	懐中電灯 (予備電池)
4	地図、模造紙、メモ帳
5	油性マジック、ボールペン
6	携帯用充電器
7	トイレットペーパー
8	ウェットティッシュ
9	簡易トイレ
10	携帯食料 (パン・缶づめなど)
11	飲料水
12	タオル、マスク、軍手



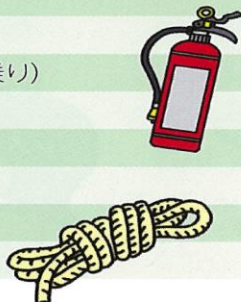
救出・救護用

No.	項目
1	バール、のこぎり、ハンマー、チェーンソー
2	はしご、ジャッキ
3	ロープ、ウィンチ
4	ヘルメット、ゴーグル、ホイッスル
5	防煙・防塵マスク、皮手袋
6	多機能ナイフ、ボルトクリッパー
7	テント、担架、毛布、リヤカー
8	救急セット (消毒液、ガーゼ、包帯など)
9	AED
10	サランラップ
11	医薬品・生理用品・紙おむつ
12	ゴミ袋
13	ポリタンク



初期消火・水防用

No.	項目
1	消火器
2	消火用バケツ
3	救命ボート (2~4人乗り)
4	救命胴衣
5	防水シート
6	シャベル、スコップ
7	ロープ
8	土のう袋 (砂)



給食給水用

No.	項目
1	清涼飲料水
2	非常食 (乾パン、アルファ化米)
3	炊飯装置、鍋、やかん、おたま
4	ガスボンベ、カセットコンロ (予備ボンベ)
5	紙コップ、紙皿、割りばし、スプーン
6	給水タンク、濾水装置
7	着火用ライター



自主防災活動の事例①

郭内町内会



自主防災活動の事例②

若宮町内会

[表紙、裏表紙]

非常持ち出し品 ※いざという時のために、非常持ち出し品を揃えておきましょう。両手が自由になるリュックサックが最適です。

非常用具
ろうそく・予備電池・缶切・
懐中電灯・剃鬚・フィッシュ・
トイレレットペーパー・ライ
ターなど

衣類
軍手・タオル・
首替え・防災予
せん・草履

非常食
缶詰・乾パン・
ビスケット・
チョコレート
など、火を通
さずに食べら
れるもの

飲料水
水＝3日分

現金品
現金・遺稿・
印章・カード・
保険証・
免許証など

救急・衛生用品
持病の薬・消毒
薬・傷薬・ばん
そうこう・生理
用品・包帯など

その他の必需品＝

自宅住所	二本松市若宮				TEL
郵便番号	〒	〒	〒	〒	〒
住所	番	号	番	号	号
電話番号(内)	番	号	番	号	号

緊急避難場所 自宅 → (徒歩で避難) → ()
家族が離れ離れになった時の集合場所 ()
最寄りの避難所名 ① () ② ()

※実際の災害に際しては、いよいよになったらあらかじめ家族で話し合っておきましょう。 ④25年03月発行

若宮町内会 防災マップ

備えよう! 支えあおう!

●緊急時連絡電話番号

警察 ▶ 110
救急車 ▶ 119
消防車 ▶ 119

NTT災害伝言ダイヤル 171
消防情報案内 23-1119
二本松市役所 23-1111
医療機関 [] -
緊急連絡 [] -

※災害に備えて、緊急時の連絡先、かかりつけの医療機関の電話番号を記入しておきましょう。

若宮町内会

[2 ~ 3 ページ]

災害から身を守るために…

天災は忘れたころにやってくる

予期しないときに身にふりかかるのが災害です。災害が起こったとき、自分・家族の安全確保が最優先されます。また、忘れてはならないのが、地域の協力です。常日頃からいざというとき隣組で、子供、お年寄り、一人暮らしの方の救出方法等を話し合い、みんなで協力体制づくりをしておきましょう。

家族みんなで話し合おう

- 危険箇所をチェックし改善する。
- 家族の役割分担を決める。
- 災害時の連絡方法や避難場所を確認しておく。
- 非常持出品の準備と定期的な点検を行う。

地域みんなで助け合おう

- 常日頃からコミュニケーションを深めておく。

十分な備え
と
思いやり

防災ネットワーク

地震対策

自分でできる地震対策

- 非常持出品は、家族構成を考えて用意し、すぐ取り出せる場所に保管しておきましょう。
- 家具の収納は重いものを下へ、軽いものは上に入れる。
- 大型の家電製品や家具は、転倒防止器具で固定する。
- 食器棚や本棚などは、中の物が飛び出さないようにロックを付ける。
- ガラスには、飛散防止のフィルムを付ける。



ちょっとした心がけでケガ予防に…

- 寝室では頭の近くにある家具の上に物をのせない。
- 浴槽服用している薬や緊急連絡先のメモを家族で共有する。
- 夜間停電の可能性もあるので、懐中電灯の外、スリッパ、厚手の靴下、タオルを枕もとに置く。



地震が来たら

1 自分の身を守る (非核)



- 机の下等にもぐるか、机やテーブルなどで頭を守る。
- 落ちてくる家具や落下物に注意する。

2 火の始末をする



- 地震が落ち着いてから、火を消し元栓を閉める。
- 出火した時は初期消火につとめる。

3 出口を確保する



- 窓を開け、出口を確保する。
- 同時に周辺所の様子を確認する。

4 非常持出品の確認



- 非常持出品を身辺に置く。
- 靴又はスリッパをはいて、余震の警戒にあたる。

5 地震情報を聞く



- 全国に注意しながら、地震情報を収集する。
- 家族や周辺所の安全を確認する。

6 複数で避難する



- 危険と判断したら、声掛け合って複数で避難する。
- 避難場所までは徒歩で移動、車は使わない。

体で感じる震度の目安とは…

震度 2	室内にいても多くの人が揺れを感じる。	震度 5	クランクほど強い揺れが感じられることがある。自動車は運転が困難になる。
震度 3	室内にいる人のほとんどが揺れを感じる。壁にある食器棚が揺れを立てる。	震度 6	立っていることが困難になる。車のタイヤや窓ガラスが割れ出し、落下する。
震度 4	振り下げておるものが大きく揺れる。歩いている人も揺れを感じる。	震度 6	逃げないで動くことができない。家具が壊れ出し、転倒する。
震度 5	壁の会社間、書類の本が壊れることがある。窓ガラスが割れることがある。	震度 7	自分の足で歩けない。目でも視認、大抵は避難しなくてはならない。

若宮町内会

[4 ~ 5 ページ]



風水害対策

土砂崩れ、突風などは、一瞬にして人命を奪います。
油断せずに日頃から十分な対策を立てておきましょう。



● 常日頃の準備が大切です。

- ① 家の周りを保全する ② 停電に備える ③ 断水に備える ④ 非常持出品を準備

● 被害が心配される時は。

- 1 気象情報に注意する**
 - テレビ、ラジオの音聲・注意報や市、消防団等の情報に注意する。
 - 周辺のけのれ物置や、川の水位の成化に注意する。
- 2 窓ガラスを補強する**
 - 板でふさいだり、ガムテープで補強する。
 - 網球は、忘れずにする。
- 3 家具道具を移動する**
 - 浸水の恐れがあるときは、高いところへ移動する。
- 4 安全な場所に避難する**
 - 危険な場合には、隣近所に声を掛け合せて、子供、お年寄りなどを優先し、避難場所等安全な所に避難する。

● 風の強さとその目安



平均風速 (m/s)	予報用語	被害
10以上～15未満	やや強い風	風に吹かれて歩きにくくなる。
15以上～20未満	強い風	風に吹かれて歩けずなし。
20以上～25未満	非常に強い風	しっかり体を押さえないと転倒する。
25以上～30未満	非常に強い風	立っていられない。樹木が倒れる。
30以上～	猛烈な風	屋根が飛び、木造住宅の全壊が起きる。

● 雨の強さとその目安



1時間雨量 (mm)	予報用語	被害
10以上～20未満	やや強い雨	長く降り続くときは注意が必要である。
20以上～30未満	強い雨	乾溝やけがあふれ、小規模なガケ崩れが起きる。
30以上～50未満	激しい雨	山崩れ、ガケ崩れが起きやすくなる。
50以上～80未満	非常に激しい雨	土砂崩れが起きやすい。
80以上～	猛烈な雨	大規模な災害が発生する。避難準備が必要。

火災対策

火災は、ちょっとした油断や不注意から発生します。
常日頃から火の用心に心掛けましょう。

火の用心



● 常日頃の予防が大切です。

- 1 消火器の設置**
 - 消火器は見やすいところに備えておく。
 - 調理中フライパンに発火する場合は速即して、肉類の消火用や濡れたタオルを用意しておくこと無い。
- 2 ガスコンロから離れない**
 - ガスコンロから離れるときは、必ず火を消す。
 - ガスコンロの裏りに乾えやすいものを置かない。
 - 香かへの着火にも注意する。
- 3 寝たばこ・ポイ捨ての禁止**
 - 就寝前には必ず消火を確認する。
 - 煙草ながら、調理中のポイ捨ては、絶対にしないという普段からのクセをつけておく。
- 4 子どもの火遊びに注意**
 - 子どもの手の届くところにマッチやライターを置かない。
 - 花火など火を使う遊びでは、大人が必ずつき添い、子どもだけにさせない。
- 5 ストープの周りの整理**
 - ストープの裏りに、食器や布巾、カーテンなど乾えやすいものを置かない。
 - 給油する時は、必ず消火してから行う。
- 6 配線の周りをきれいに**
 - 異常火災が発生。たこ足配線は絶対にやめる。
 - コンセントの回りは、定期的に清掃する。
 - コードを結んだり重いものを置かない。

7 放火対策

- 家の周りには、燃えやすいものを置かない。
- 神隠しをかけるのはもちろん、戸を閉めて、ちょっとした家火であることを示す。

119 火災発生!

小さな火災でも必ず通報!

通報! 消火! 避難!

火災発生! 火火器・水・除け網など身近な物で初期消火!

子ども・お年寄りを最優先で、安全な場所に先ず避難!

119番のかけ方

- ① 火災であることを伝える。
- ② 火災現場の住所を伝える。
- ③ 何が燃えているかを伝える。
- ④ ケガ人や逃げ遅れている人がいるかどうかを伝える。
- ⑤ かけている電話番号（又は携帯電話番号）を伝える。
- ⑥ 通報者の名前を告げる。

おわりに

- ・ できることから始めましょう
手作りの防災マップ作り
地区の行事と合わせて簡単な防災訓練を実施



- ・ なるべくお金をかけない
救助活動の三種の神器
「バール」「のこぎり」「ジャッキ（車用で可）」
物干しざお2本と毛布2枚あれば手作りで担架も作れる
⇒お金をかける必要はありません。持ちよることで物は集まります
- ・ 災害時要援護者の再確認と、必要な方の新規登録の斡旋を
- ・ 各家庭で飲食料品の備蓄を最低限3日分確保
水は1人1日3リットル ⇒ 家族4人で36リットル(3日分)